

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17059

建築物名称	(仮称)株式会社五十嵐電機製作所新本社建設プロジェクト
建築主	株式会社五十嵐電機製作所 代表取締役社長 五十嵐 恵一
建築物の所在地	川崎市幸区遠藤町49番1
設計者氏名、建築士事務所名	宮岡 良幸 株式会社ピーエス三菱 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	4,413.34m ²
用途	事務所
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了年月	平成31年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社五十嵐電機製作所新本社建設プロジェクト	階数	地上4F
建設地	川崎市幸区遠藤町49番1	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	110人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 竣工	評価の実施日	2018年2月22日
敷地面積	3,834 m ²	作成者	(株)ピーエス三菱
建築面積	1,357 m ²	確認日	
延床面積	4,413 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 100%
②建築物の取組み 79%
③上記+②以外の 79%
④上記+ 79%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している 周囲への圧迫感を軽減し、緑地を設け良好な景観を形成している 空地率61.67%	1.8/4.3	2.1
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	Low-Eガラスを使用	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	Low-Eガラスを使用	0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している 空地率61.67%	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	Low-Eガラスを使用	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	リサイクル資材の使用	2.8/4.7	3.0
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	主要設備機器の更新必要間隔を15年とした	0.3/0.5	2.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	リサイクル資材の使用	2.4/4.0	3.0
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	荷捌き用駐車施設の確保	0.3/0.4	3.6
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.3
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している 空地率61.67%	0.6/2.3	1.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	Low-Eガラスを使用	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	Low-Eガラスを使用	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	Low-Eガラスを使用	3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質														2.9
Q1 室内環境														3.2
1 音環境														3.0
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														3.0
1 開口部遮音性能														3.0
2 界壁遮音性能														3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														3.0
2.1 室温制御														3.0
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														3.1
3.1 昼光利用														3.0
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														-
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														3.0
1 昼光制御														3.0
3.3 照度														4.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														3.7
4.1 発生源対策														4.0
1 化学汚染物質														4.0
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														4.0
1 CO ₂ の監視														3.0
2 喫煙の制御														5.0

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.1	
1 機能性						3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性					3.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応					3.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画					3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30	-	-	
1	広さ感・景観					3.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース					5.0	0.33	-	-	
3	内装計画					3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.8	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		R			3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R			2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R			3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.8	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	
3	電気設備					3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり						4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり					5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ					3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり						3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性					3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性					3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性					3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性					3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保					3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						—	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				G	W	H				
						1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						
						3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										
						3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H				
						2.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性										3.3
LR1 エネルギー										3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	[BPI _m]=0.81	4.9	0.20	-	-	4.9
2 自然エネルギー利用		W		H		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEI][BEI _m]=0.71	3.9	0.50	-	-	3.9
4 効率的運用						2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価						2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										3.0
1 水資源保護		W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水						3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		再生砕石	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										3.1
1 地球温暖化への配慮		W			LCCO2排出率が80%程度	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮						2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減				R		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				R		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制				R	自転車置き場設置。従業員、管理者の駐車場確保。	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				R		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	
2 振動						-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	